

臨時社会教育委員会議事録（議事要旨）

- 1 **開催日時** 平成17年4月26日（火）午後2時5分～4時30分
- 2 **開催場所** 浦安市中央図書館 1階 第2集会室
- 3 **出席者**
(委員)
田中（實）委員長、梅澤副委員長、山本委員、田中（照幸）委員、津矢田委員、田中（旻）委員、下田委員
(事務局)
教育委員会理事、生涯学習部長、同次長、生涯学習課長、同主幹、市民スポーツ課長、青少年課長、中央公民館長、堀江公民館長、富岡公民館長、美浜公民館長、当代島公民館長、日の出公民館長、中央図書館長、視聴覚ライブラリー館長、郷土博物館長、青少年センター（兼）青少年館副主幹、生涯学習推進係
- 4 **議題**
 - (1) **前回会議内容の確認**
 - (2) **協議事項**
 - 1) 平成17年度社会教育関係団体活動補助金の交付予定について
 - (3) **報告事項**
 - 1) 平成17年度事業計画について
 - (4) **その他**
 - 1) 次回会議日程について
- 5 **議事の概要**
 - (1) **前回会議内容の確認**

平成16年度第6回社会教育委員会議の議事録について、事務局より報告を行った。
 - (2) **協議事項**
 - 1) 平成17年度社会教育関係団体活動補助金の交付予定について
補助金交付予定のある担当課長より内容を説明し、青少年課所管の補助金を除き承認された。なお、青少年課に関しては、次回会議で協議することとなった。
 - (3) **報告事項**
 - 1) 平成17年度事業計画について
各担当課（館）長より内容を説明した。
 - (4) **その他**
 - 1) 次回会議日程について
次回の会議は、平成17年5月19日の開催予定。
- 6 **会議経過**
 - (1) **前回会議内容の確認**

前回開催の第6回社会教育委員会議の議事録について、事務局より報告を行った。
 - (2) **協議事項**

平成17年度社会教育関係団体活動補助金の交付について、該当のある担当課長より内容を説明した。
その際に表明された質問及び意見は次のとおりである。
(質問) 補助金の交付基準については、過去の実績を勘案して交付額を決定しているのか。それとも新たな基準を設けたのか。

- (回答) 明確な基準がないため、過去の実績・収支状況を勘案して交付金額を定めている。
- 例えば、今年度の幼P連については、これまでの実績をみて、今年度は減額している。
- 市の補助金検討委員会では補助金交付の適正について協議・調査しながら、今後、明確な交付基準が定められるものと考えている。
- (意見) 市民の税金であるため、透明性を持たせることが必要であることから、その点を強く要望する。
- (質問) 補助金を審査する際、前年に購入した備品や内部講師の調達など、蓄積されてきた部分の審査はどのようにしているのか。補助額が毎年同額で推移しているため、蓄積部分は考慮されていないと判断するがいかがか。
- (回答) 団体によっては必要な物品の蓄積はあるものと思う。今後、そのような部分を審査の視点に捉えていくことも必要と考える。
- (質問) 団体の運営費のうち、補助金の占める割合についてお聞きする。
- (回答) 交付基準がないため、検討委員会を立ち上げて協議している段階である。
- (回答) 補助金の交付を受けるためには、自主財源のあることが条件のひとつにある。ほぼ運営費の1/2前後で補助金を交付しているのが現状である。
- (質問) 市民演奏会実行委員会補助金の主な用途をお聞きしたい。
- (回答) 団員を募集し、講師の指導のもと練習していくものであり、講師謝礼に充当される割合が大きい。
- (質問) 市民演奏会実行委員会の立ち上げ時期をお聞きしたい。
- (回答) 浦安シティオーケストラと浦安市合唱連盟の方で実行委員会を組織し、5月15日に結団式を行う。
- 市民演奏会自体は、第九演奏会からレクイエムへと演題に変更はあったが、今回で20回目を迎える。
- (質問) 新しい企画では、何回目の開催となるのか。
- (回答) 2回目である。
- (質問) 講師謝礼に補助金のほとんどが使われているが、5年、10年経過すると指導者の中には、ある程度の技量をつけてくる方もいると思うが、今後の考えをお聞きしたい。
- (回答) 理想は委員の意見どおりにいけば良い。プロのオーケストラを招聘し指導を受ける、また市内の合唱サークルも活発に展開していることから、自らの手で運営できれば一番理想的な姿である。しかし現段階では、技量の向上に力点が置かれる。
- (質問) 日常的には各団体で活動しているのか。団員募集は何名ぐらい行うのか。
- (回答) これから市民合唱団員の募集を行う。実行委員会の中心となる2団体は、日常的にはそれぞれに活動している。
- (意見) 公民館で活動している団体の発表会に参加したが、相当レベルが高い。この事業もハイレベルだと思うので、機会があれば、演奏会に参加し、内容を熟知していく必要がある。また、用途目的を明確に知らせていただきたい。
- (回答) 補助金の用途については、団体に実績報告書の提出を求めている。
- (質問) 前回の演奏会の参加者は何人か。

- (回答) 前回は245名である。
- (質問) 隔年の開催になったのはいつ頃からか。
- (回答) 市民ミュージカルを上演した年度から隔年で同事業と交互に開催してきている。
- (質問) ゴルフ協会ジュニア部の会員数についてお聞きする。
- (回答) 11月に設立総会を開催したが、資料を持ち合わせてないので正確なデータはお答えできない。
- (質問) サッカー協会少年部に女子部が新たに組織されたため、増額となったと捉えてよいのか。
- (回答) 少年部の会員数の増加により、今回新たに女子の部を独立したことから補助金額が増額となった。
- (質問) ゴルフ協会ジュニア部の補助金の使途目的は何か。
- (回答) 活動の事業費補助に充てる。発足間もないため、事業が活発になれば、補助金額の見直しを考えていく。
- (質問) 軽スポーツ協会には、他の補助金交付を受けている団体が含まれるのか。
- (回答) ありません。
- (質問) 10団体が加入している軽スポーツ協会では、単純計算で1団体当たり6万円強の補助である。活発な活動を行うためには金額増加を考えてはいかがか。
- (回答) 1団体に対し3万円の補助をし、その後は軽スポーツ協会としての事業に充てている。各団体が事業を拡大していくのであれば、今後団体と協議を重ねるとともに、費用的な面で財政当局と協議してでき得るのであれば増額をしていきたいと考えるが、現状の活動では補助金を有効的に活用されている。
- (意見) 少ない予算で、活発な活動を求めていくのは無理な話である。
- (質問) 軽スポーツ協会の会員の構成年齢についてお聞きする。
- (回答) 高齢者向けの種目から、幼稚園・小学校向けの種目といった幅広い年齢層で構成されている。今回、ダーツ、ファミリーバドミントンの2団体が加盟し、20歳～60歳の構成となっている。
- (質問) ガールスカウトについては、浦安市内の団体は存在しないのか。
- (回答) 名称が県において通し番号でふられているため、千葉県第60団、80団となっているが、実態は浦安市にある団体である。
- (質問) 浦安市リーダーズクラブはどのような団体なのか。
- (回答) 市主催で小学校4～6年生を対象としたジュニアリーダー研修会を年7回開催し、その修了者によって組織し、子ども会や市主催事業に協力いただいている。会員は小学生～社会人の28名で構成している。
- (質問) ジュニアリーダー研修会は、小学校を通じて募集しているのか。
- (回答) 市広報により公募し、宿泊研修、講演会等のプログラムを行うことで、ジュニアリーダーとしての資質を養い、地域での行事等において中心的な役割を担っていただく。
- (質問) 昨年度の資料と比較すると、今年度では健全育成連絡会及び青少年相談員連絡協議会への補助金が掲載されているが、どのような理由なのか。
- (回答) この2団体は社会教育関係団体であるので、昨年度の資料が記載漏れであった。
- (回答) 委員ご指摘のとおり、昨年度資料に記載漏れのため、次回会議で整

理をして報告させていただきたい。なお、次年度からは金額を対比した資料が必要となることから、見やすい資料作成に心がけたい。

(意見) 青少年課に関わる補助金については、保留でよろしいのか。

(回答) 17年度の補助金交付に関する質問は本日の会議で終了していただき、昨年度の資料に記載されなかった部分について、次回会議で報告していきたい。

(意見) 今回の議題については、承認していただきたいということなのか。

(回答) その通りお願いしたい。

(意見) 予算執行にも影響があると思うが、委員が納得できなければ承認できない。

(意見) 今回、結果を出さないと、事務手続き等に支障があるのか。

(回答) 昨年度の件については、次回会議で報告していきたい。17年度については、4～6月にかけての各団体の総会において予算案が提示され会員の承認を得る必要があること、また年度始めに申請があれば補助金を交付する段取りがあることから、承認いただきたい。

(質問) 総会はいつ行われるのか。

(回答) 青少年相談員連絡協議会の総会は4月22日に終了し、健全育成連絡会の総会は5月に開催される予定である。

(意見) この会議では委員の意見を聞き、各委員の意見が一致しなければならない。委員が納得いかなければ不承認になるのではないか。

(回答) そのようなことであれば、次回へ保留させてもらいたい。

(結果) 青少年課の所管部分については保留とし、次回会議で検討する。

(3) 報告事項

平成17年度事業計画について各担当課(館)長より内容を説明した。

その際に表明された質問及び意見は次のとおりである。

(質問) 富岡公民館の「現代中国を学ぶ講座」について、講師は中国の方であるのか。

(回答) 大学で中国語指導の非常勤講師を務めている台湾の女性の方に中国社会の仕組み、人と暮らしについて講義いただく。また、丸紅株式会社の特別顧問に、中国に在住した経験を生かし中国経済について講義いただく。

(質問) 視聴覚ライブラリーの「パソコン講習会」について、申込みしても参加できないという声を聞く。回数や定員数の増加をお願いしたい。

(回答) 毎回好評で、定員以上の申込みをいただくので、厳正な抽選を行っている。今年度から情報政策課と連携し事業展開を行い、視聴覚ライブラリーでは初心者を対象に事業を開催する。また、パソコン機器の所有台数に限りがあるため定員を定めている。

(質問) 学社融合の視点から、郷土博物館の来館者に占める児童・生徒の割合が多いと聞くが、その割合をお聞きする。

(回答) 全体の7割程度が幼稚園・学校関係での利用である。他の博物館とは異なり、体験的な展示内容という点ではリピーターが多い。学校と連携し体験学習の場として提供しているため、学校関係の利用が多くなっている。

(質問) 郷土博物館のリピーター率はどのくらいか。

(回答) 学校・幼稚園からは、毎年来館している。一般来館者と併せるとリピーター率は60%を超える。

- (質問) リピーター率を増やすための方策を考えているのか。
- (回答) 学校の先生2名が博物館に常駐し、学校と打合せをしながら企画を立て事業を展開している。幼稚園では、幼稚園教諭が独自にカリキュラムを立てている。なお、毎年企画を変更して対応している。
- (質問) 予算はいくらか。
- (回答) 資料を持ち合わせていないので、詳細説明はできない。
- (質問) 展示物の変更計画はあるのか。
- (回答) 開館して5年しか経過していないこと、また財政面も考慮すると現段階での変更は難しい。
- (質問) 郷土博物館ボランティア「もやいの会」の会員が高齢化してきているが、今後の博物館運営に関して連絡調整が大切になるのではないか。
- (回答) もやいの会をはじめ、投網保存会、お洒落保存会など博物館ボランティアとして参加いただいている団体には、会員を増やし後継者育成に努めていただくようお願いしている。
- (質問) 体験学習に重点を置いた事業展開をしていくということであるが、参加者数が多い事業を示して欲しい。
- (回答) 夏休み作品展の事業を充実して、多くの方に来館していただきたい。
- (意見) 海に関わる文化が途絶えることは寂しい。伝統文化の継承の危機に直面する時期に来ているため、後継者の育成にぜひとも力を入れていただきたい。
- (意見) 後継者の育成については、講習・講座を開催し、その受講生の中から後継者を育てていくことも必要である。
- (意見) 盆踊り大会のパトロールが午後9時以降に行われていないため、市P連ではパトロールの時間帯を見直し、午後9時以降にも行っていく予定であるので、ぜひ補導員連絡協議会のご協力もお願いしたい。
- (意見) 子ども向けの情報紙の発行とあわせて、生涯学習課で子どもたちの体験活動事業を計画し、できれば市民との協働で展開して欲しい。

(4) その他

1) 次回会議日程について

次回の会議は、平成17年5月19日の午後2時から文化会館で開催する予定である。

以 上